

## 「熱海市伊豆山地区、土石流被害」 に関する業務委員会を開催！

9月7日、地本は「熱海市伊豆山地区、土石流被害」に関する緊急申し入れについて、業務委員会を関西支社と行いました。参加者は、組合側は柳楽副委員長、今田業務部長、渡邊組織担当部長、細田車両担当部長、下茂運輸担当部長、西組織部長。会社側は、足立人事課課長代理、辻井運輸課課長代理、丹藤車両課課長代理、深谷人事課係長でした。

### 「申」第2号「熱海市伊豆山地区、土石流被害」に関する緊急申し入れ

7月3日、静岡県、熱海市伊豆山地区で発生した土石流で甚大な被害が発生した。未だに、死者、行方不明者の全貌が明らかにならない中、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

今回の土石流は、東海道新幹線、熱海～小田原間 94.5キロ～94.3キロ線路の高架付近を通過しており、同付近を走行する列車に対して、速度70km（日没後はマニュアル30）で徐行運転を行っている。

また、6日午前10時半頃、現場付近で線路設備の確認をしていた係員が列車防護スイッチを押し、約1時間、運転抑止になるなど、二次災害の危険性が孕んでいる。

今回の土石流に対し、労働組合として東海道新幹線の運行に万全を期し、乗客・乗務員の生命と安全を守るのが最優先であると考えます。

よって、下記の通り緊急に申し入れるので、早急に団体交渉の場を設定すること。

#### 記

1. 静岡県、熱海市伊豆山地区で発生した土石流被害に対し、東海道新幹線の現場付近の影響を明らかにすること。

#### 【会社回答】

列車運行に影響を与えるような損傷は確認されていない。

2. 7月6日時点で、現場付近を走行する列車に対し、速度70km（日没後マニュアル30km）の徐行運転を行っている。現地の状況次第では、二次災害も起きる危険性を孕んでいる。会社の見解を明らかにすること。

**【会社回答】**

発災後、現地にて線路設備に異常がないことを確認すると共に現地に固定警備を配置し、異常が発生した際には直ぐに停止手配を取れる体制を確保した上で念のため徐行とした。尚、7月6日には固定監視用カメラを設置し遠隔による監視体制とした。

3. 7月6日午前10時半頃、現場付近で線路設備の確認をしていた係員が列車防護スイッチを押し、約1時間、運転抑止した。その原因を明らかにすること。

**【会社回答】**

現地で固定監視中の係員が付近の消防隊員より退避するよう連絡を受けたため、非常停止ボタンを扱い運転を見合せていたが安全の確認が取れたため運転を再開した。

4. 熱海市伊豆山地区付近では、少量の雨量でも二次災害が起きる危険性がある。東海道新幹線の運行に対し、今後の対策を明らかにすること。

**【会社回答】**

遠方からの土石流に対しては、新幹線は立体交差構造を基本とし、桁の高さが確認されていることから降雨量による係員の点検や、運転規制により対応することとしている土石流によるリスクは限定的ではあるが今回の事象を踏まえて今後必要な対策について検討していく。

## **【若干のやり取り】**

(組合) 2の項目の7月6日に固定用監視カメラを設置したと言うが、何台設置したのか。

(会社) 台数については、必要な分だけ設置している。

(組合) 7月6日から固定用監視カメラは24時間監視しているのか。

(会社) その後、しばらくは見ていた。

(組合) 今日(9月7日)までずっと監視カメラで監視しているのか。

(会社) 7月25日までは土石流の可能性も高いので固定用監視カメラで常時監視をしていた、25日以降はそれ以外の気象庁のレーダーを使いながら、必要な場合に目視で監視をしていた。目視ではない時はカメラを使って監視をしていた。

(組合) 監視カメラで監視して、土砂が流出したらどうやって列車を止めるのか。

(会社) 危険な時は運転士の判断で止める。

(組合) 3の項目の「安全の確認が取れた」とあるが、誰の判断で安全の確認が取れたのか。

(会社) 少なくとも現地の土石流については、現地の消防隊とやり取りをしている、そのあたりの情報を勘案しながら運転再開という判断をしています。

(組合) 消防隊員の助言を得てだな。

(組合) 熱海だけではなく、他の所も含めて危険な箇所のハザードマップの見直し等を行っているのか。

(会社) 現時点ではカメラを（熱海以外）付けたという話は聞いていない。

以上